



《 国産大豆 》

落札率は依然低迷、価格の下げはわずかだけ

5月に2回実施された18年産国産大豆の第13～14回入札結果は、日本特産農産物協会の発表によりますと、上場数は1万4402t、落札が4088t、落札率が28%、平均落札価格は前月比60kg/4円安という結果となりました。全体の落札率は依然として低いものの、岩手県産は79%、秋田県産は59%、宮城県産、青森県産とも57%と高い落札率(普通大豆)となっております。

先月に引続き茨城県の極小粒「納豆小粒」は、60kg/11387円と高騰しており、他には、栃木県の小粒「納豆小粒」が、60kg/12400円。宮城県の大粒「ミヤギシロメ」が、60kg/8207円と高値になっております。

6月の入札は、1万2000t程度上場予定です。今年の入札は8月までの予定ですが、銘柄によっては、終盤に差しかかっているものもありますので、お早めのお手当てがよろしいかと思われ



《 中国産大豆 》

作付面積大幅減、天候悪化の懸念も

2007年産の大豆作付けは既に開始されておりますが、主産地の気温が低温のため、作業の進捗は若干遅れている状況です。

また、中国の現地報道によると、華北・華中地方での干ばつが深刻化しており、農作物に影響が出ていると伝えられております。

さらに、現地気象関係者は、今年の中国は、地球温暖化の影響を受け、台風や洪水、干ばつなどの異常気象に見舞われやすい状態にあるとの見解を示しております。

栽培面積に関しては、トウモロコシと水稲が増加し、大豆が減少すると予想されています。大豆の作付面積は前年よりも15%前後減少する見通しです。

2007年産の大豆価格につきましては、大連交易所の先物価格でも、既にほとんどの限月で高値を付けており、中国国内における中国大豆、また、穀物全般の価格も上昇傾向となっております。

これは、中国における人民の消費が向上していることに起因しているものと思われる、引き続き注視する必要があります。

ちなみに、大豆油やパーム油の高騰も中国、インドにおける需要の急増が原因だといわれております。



《 北米産大豆 》

世界大豆生産予想、上方修正（06/07年度）

アメリカ農務省が5/11に発表した世界の大豆生産高予想では、2億3368万tとわずかながらも上方修正されました。パラグアイが50万t増加し、600万tの見込みとなりました。

米国大豆生産量は大幅減少（07/08年度）

アメリカ農務省が5/11に発表した米国大豆需要予想によると、07/08年度の生産量は、3月の意向調査どおり作付面積の大幅な減少を見込んでいることから、前年度よりも4億4300万ブッシェル減少して、27億4500万ブッシェルと予想されています。

総供給量は、期初在庫が記録の水準にあることから、前年度からは2億8300万ブッシェルの減少にとどまる見通しです。

また、総需要量はほぼ前年並みを見込んでおり、期末在庫は3億2000万ブッシェルまで調整されるものの、在庫率は10.5%と、2桁台を維持する見通しです。ちなみに、06/07年度の期末在庫率は20.1%と見込まれています。

* 1ブッシェルとは、約27.22kgです。

米国大豆作付率、発芽率進捗は順調（07/08年度）

アメリカ農務省が5/29に発表した、5/27現在の米国大豆作付率は、主要18州平均で、80%（前年75% 平年67%）と、順調なペースで作付けされております。

また、発芽率についても、同じく主要18州平均で、48%（前年38% 平年35%）と、順調な生育具合となっております。

* 主要18州とは、

アーカンソー州、イリノイ州、
インディアナ州、アイオワ州、
カンザス州、ケンタッキー州、
ルイジアナ州、ミシガン州、
ミネソタ州、ミシシッピ州、
ミズーリ州、ネブラスカ州、
ノースカロライナ州、ノースダコタ州、
オハイオ州、サウスダコタ州、
テネシー州、ウィスコンシン州のこと。



現在の畑の状態

伊藤忠商事(株)資料より